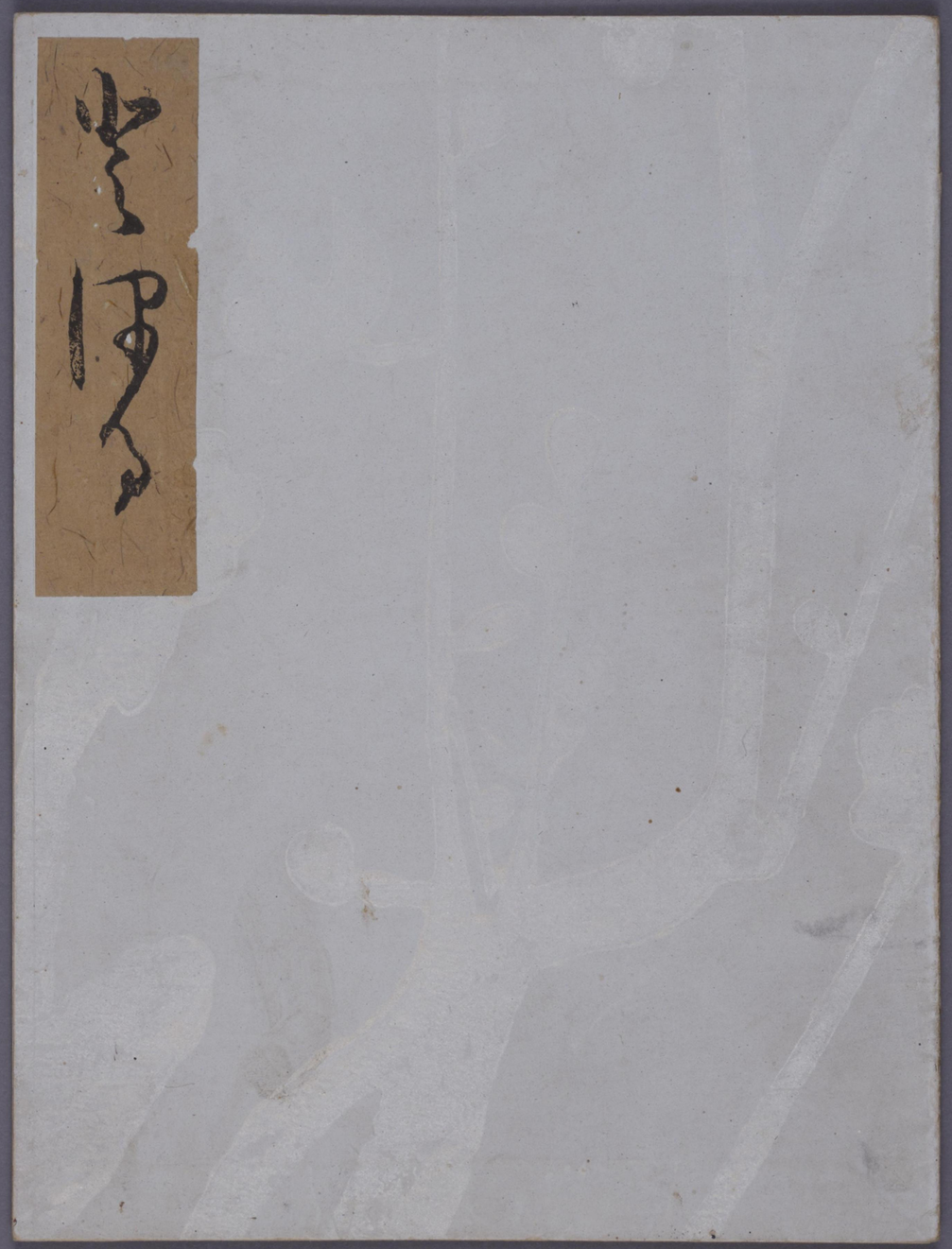

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-001

国立国会図書館

七年詞

こゝ我ハ東國うゝよわいてたる
僧すてゝ此歌いまゝ我をこゝ以
程よ此度思ひたち我小上里作
下三の
思ひ入侍心そ志家へ雲をわけ
船路をわたる山をこえ千里も
我なし一足よく　上三の　申ふへを
りたゝ祝我毎乃ぐく宿我必殘も　下一

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-002
国立国会図書館

りたしなわてぶ頼よりやくはなふ
くわくく　詞　急は程よ見はしや
頼ふはなてひごろ所をそ六条
河原院やらせ門くよ作人を
まちきりしく頼りや此思ひは
月もりや出塩よまわて塩竈ぶ
満をひ渡るぞし我か　陸奥ハ

ほくハあまぞ塩竈乃うらみて
渡ぶ老り月乃ぐるんもいそや
をためなるぶもほめ家水乃
面よでぶ月なまをこのうふまた
ごよひう海乃宮中なぶぞよや
殺をそ塩竈若月も頼乃宮中か
秋ハなりそ月ハ院老重なわて

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-003
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-004
国立国会図書館

河原院すりきほゝ南乃浦ひよ
融大臣千賀乃塩竈を我乃中に
うけさせ給ふ海をなす給ひなる
流きたる河原院乃ゞひいなも
く色池水をもすめ家塩竈乃浦
人な給ひ塩汲ひ所とおほさぬ
やや　かくまく陸奥乃千賀乃

塩竈を我乃中小うけさせ給たる
事所及て作様ハあき所るを
まり幾ゝの時はゝ　さん以あき
すり下り幾ゝの志下ひよ融大臣
ひさハ清船をよ智清河妻乃遊業
を南くなわし所そりしや
月とうひそくりん　実く月乃

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-005
国立国会図書館

出て以ゝやぶあ所ゆりきゝの鶯の
森乃こゝ浦ふ鶯乃志遊くし
とゝへ清わてゝぶ志も世ふ殺る月影
まのそも（上カル）殺舟ゝ海家牙所上かと
思ひ出ゝ社て作（シテ詞）河と唯て所
面前乃愛し貴ゝの清僧乃清牙ゝ
志ゝ海ゝ堅ハ苦も貴崎の宮葉

が（上カル）説鶯ハ宿ゝ池中の桜（ヤキ）僧を
鼓月下の門（シテ）桜も（ヤキ）たゝゝも
古人乃心ゝ（二人上）ゝ目お乃秋音り
あるゝ（上三の内）実やいまし画も月ふは
千変の恒か所乃ぐゝぐゝ乃
秋も半ゝて（ヒル）桜風もふ清なるゝや
勢所まり（ヒル）（一下）義浴志所かゝ秋ゝ

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-006
国立国会図書館

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-007
国立国会図書館

ニ一 一下、ニ一 一ハル二 一ニ一下ニ一ニ一
乱も たち渡る 菅乃 詞を 陸奥 ゟ
、一 一 ニ一 一ハル一 一下一 、ニ
手賀ゟ 満堂を なりめ 其やく

ヤキ詞
塩竈乃 満を 其の中ふ 清さ 其
ゝ 家いゝ 其 清 抱かゝる 事 人

シテ詞
菅 漢 家 天皇乃 清宇ゟ 融大臣と
ナし 人 陸奥乃 千賀の 塩竈乃
眺望を 中 召及ゝ 其 其乃 うちゝ

事 清しを 愛 女乃 難波ゟ 見 清乃
うゝ よわ もば 毎に 御を 見 まを
ざゝ まて 塩を やうを 清ゝ 一 事
清 遊乃 たよわ 此志 行ふ 然とも
其後ハ お 積しても 遊ふ 人も
家 事 ゟ 浦ハ 其 まゝ ひしほと
上カル一 ニ一下一 、一 一 一 ニ一
成て 迎 ゟ によと 其 たまわ 水ハ

雨乃殘ヨ孫ふ海お江よだち葉
ちるまうは桂信の月こゝに可まれ
秋風孫音乃見殘るたりわなわ
上 ざ孫ま哥小も君さくてくふわ
たしかし堀竈乃浦をひしくも
見し渡るこの所ぞ貫えも詠て以
下月 ぞまや眺其まれ月乃見くて海

きほかまま孫浦をひしくもあま
ゝ清る隠乃世とも志ほし見て
老乃波もうへふやうぞあら昔
上三句 恋しや恋しやくぞこへ
とも歎々ともぐひもなまを孫
下 浦千尋音我乃見明計なわく
芋詞 いろる厨殿見し渡ヨたる山ゝハ

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-008
国立国会図書館

皆為所まつそひしなき清姿なん
シテ詞 さしなきは此為に小さく作清路なん
姿中ひ面し 半 まつ清あまきよかんし
こゝろハなとそ山はか シテ さしなきは
あまこゝ音音羽山ひよ ヤキ 音羽山
なと小きゝ清ゝ和坂乃ぞ我清
き所ゝ是讀なまきを逢坂山も

程をうこゝ音は説 シテ詞 作のことなる
関乃き所ゝ是ハ讀なまきとも
ぞ所ゝ是あゝ神を逢坂乃山ハ
音羽ゝ岩小隠まて 上カル 浅ゝよわ老
ゝ、ぬ、あわ 中上カル さてゝ音羽乃
ゝ清ゝ我次第ゝ乃山なまこ所
ゝ所ゝ我語所へ シテ詞 かゝるまハ

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-009
国立国会図書館

ほくさしきと申葉乃哥の中山
清閑寺今熊野とはあれそかし
ワキ「猶其末に続きたる里一村
森のこたち シテ詞「それをしるへに
御覧せよまたきしくれの秋
なれは紅葉もあをき稲荷山
ワキ「風もくれ行雲の梢も

あをき秋乃色 シテ詞「いまこそ秋よ
名にしおふ春ハ花見し藤乃森
ワキ「みとり乃空もかけあをき野山に
つゝく里はいかに シテ上カヽル「あれこそ
ゆふされハ ワキ「野辺乃あき風
シテ「身にしみて ワキ「うつらなく成
シテ「深草山よ 下ゲ 木幡山伏見乃竹田

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-011
国立国会図書館

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-012
国立国会図書館

波乃尤はきほかま濃うし人乃
ぞ雪乃月我尤ちのゝ乃ぞ賀新
隅半も幸我世よぞ名を乃これ
ほうちきゝ尤離大臣ぞハ新事
かわ新塩竈乃うしに心をよを
ぬ乃まり我の時の松のをり
明月よ山ほ我ゝ月宮殿乃

白太乃袖もゞ三五夜中乃新月新
明新ぢ恵山ほや雲をめくしれ
雲乃そて　されや桂若枝ゝ小
ひかわ我花とぢしれよそほひ
愛山も名よふ法志し川乃波の
慈れもし新や如名乃まりほよ
ぐけさわ　遊舞新袖　あら

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-014
国立国会図書館

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-015
国立国会図書館

上北 ㇾ 春は池邊の桜小宿し シテ下 魚は
ハル 月下乃浪にふ可 上北 ゆ世あり し
秋の夜乃 シテ上 春もかすみ 上北 りあも
おぼえて シテ上 ほとゝぎすもりや 上月 このけ
うゑ小袖 ハル 明り夫の雲となれ
下 面影なるぼ シレル 光陰にまぎりし程て
月乃影にの 祈ふよそほひあら
必幾情乃面影や明こゝに行し落
おもかけ

国立国会図書館

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-016

国立国会図書館

[謡本] とほる 1冊 WA7- 066-017

国立国会図書館